

第6回議会報告会質疑応答記録（概要）

平成26年7月7日（月） 午後7時30分から

宗賀支所

◎委員会報告

Q1 市民

- ・ぶどう生産者の立場を知ってほしい。ワイン大学やワインフェスタどころではない。消費税やデフレ脱却でガソリンや資材などの物価が高騰しても、加工ぶどうの買取価格は一向に上がらないが、議員たちはどう思うか。

A 中原巳年男議員

- ・買い取り価格はkg当たり100円前後だと思います。ただし、糖度買いになり、糖度16度以上を高価買い取りにしている。

Q2 市民

- ・大手ワインメーカーは、持ち込んだ加工ぶどうを15.8度（2級）と検査結果を出して、高価買い取りに合格させてくれない。こんな姑息な手段で生産農家の生活のカテを奪っている。生産者としては納得できない。

◎意見交換会

Q3 市民

- ・「山のお宝ステーション」をより具体的に説明を。

A 青木議員

- ・産学官で進めているFパワープロジェクト関連事業で、自伐林家が搬出した間伐材を集積基地で買い取る事業で、塩尻市振興公社に委託したものです。まだ、明確な計画の提出はなく、年次的計画が提出されると思う。

Q4 市民

- ・信州しおじりふるさと寄付金制度をより具体的に説明を。

A 古畑議員

- ・例えば、1万円の寄付のうち、確定申告すれば、納付金の2,000円以上の部分税控除である。それに、地元産品が送り届けられる、と言う制度です。塩尻市では、ワインなどのまごころ特産品セットや市内博物館の無料入場券や広報しおじり1年分が贈られるという制度である。

Q5 市民

- ・「山のお宝ステーション」の設置に疑問が残る。また、森林整備が進んでも負担金や補助金が発生しないか。

A 青木議員

- ・森林集約協議会の片丘地区をモデルパターンにして、北小野、洗馬への説明会を予定していく。

A 永田議員

- ・このFパワープロジェクト事業が片丘地区ですので、片丘地区で先行しています。今後、北小野・洗馬地区にも説明会が開かれますので、もう少しお待ちください。また、県の森林税から1ha15,000円の補助金が出ますので、赤字にはならないと信じている。

Q6 市民

- ・Fパワープロジェクトが赤字になったらどうするか。

A 永田議員

- ・黒字で買い取ってもらう約束になっている。ただ、県全体で、年間30万立米算出している原木に、今回の計画で5万立米必要となるが、集まるかどうか心配である。それと、かかわる技術者の育成も必要で、県と森林組合と連携して欲しいと思う。

Q7 市民

- ・伐採は素人でもできる。ただし、山奥から搬出するのが問題だ。谷の奥の山から、所有者の判明しない間伐材をどうやって搬出するのか。また、倒木は振れている、流木は石が絡んでいるなどで使用できないが、持ち込めるか。ただし、山間地の整備が進んで良いことだ。

A 永田議員

- ・伐採は事前に申告した山のみで、事前登録された者しか持ち込めない。また、川の流木は持ち込めない。周知徹底に、事前説明会を予定している。

Q8 市民

- ・市の予算プランニングに、議会はどこまで入っているか。

A 五味議長

- ・決算の審議を反映した予算かどうか、議会に付託された項目ごとに審査し採決をしている。

Q9 市民

- ・特色ある教育づくりに、各校に200万円配布したが効果は。

A 永田議員

- ・上限200万円です。檜川中では被災地見学、他では農業体験・吹奏楽部の地域講演会などに使われている。

Q10 市民

- ・200万円は一過性のものか。

A 永田議員

- ・2年間継続の予定です。ただし、良いことなので減額でも、継続するように働きかけていく。

Q11 市民

- ・Fパワープロジェクトのリスクマネジメントは。

A 青柳議員

- ・塩尻市は、土地を貸しているだけで、事業主体は県である。従って、市は主導権がない。県は森林税を5年間延長した見返りに、民間からのアイデアを募集した。征矢野のアイデアでFパワープロジェクトが採用され、塩尻市の遊休地を貸し出した。

3. 1 1 原発事故で、全国的にバイオマス発電に切替えられ、固定価格買取制度になり、一気に推進された。市民の負担のないように見ていく必要がある。